

金沢大学
環境
報告書
2007

Kanazawa University
Environmental
Management
Report
2007

[ダイジェスト版]

金沢大学の教育・研究活動及び事業活動に伴う環境への負荷の状況と環境配慮の取組などを、本学関係者、地域の皆様などを対象に分かり易く総合的にとりまとめた環境報告書のダイジェスト版です。
対象範囲：金沢大学キャンパスの事業活動・教育・研究活動（業務を委託した業者のキャンパス内における事業活動を含む）
対象期間：平成 18 (2006) 年度 (平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月)

環境報告書公開アドレス
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_sisetu/kankyo/2007.pdf

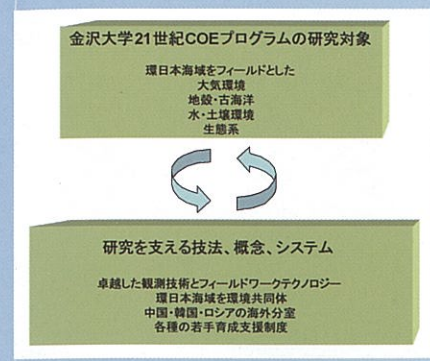
金沢大学環境報告書 2007 ダイジェスト版
平成 19 年 9 月発行 [編集・発行] 金沢大学 環境委員会

お問い合わせ先：
〒920-1192 石川県金沢市角間町 金沢大学施設管理部安全環境課
TEL: 076-264-5145 FAX: 076-234-4033
E-mail: kankyo@ad.kanazawa-u.ac.jp

環境に関する研究

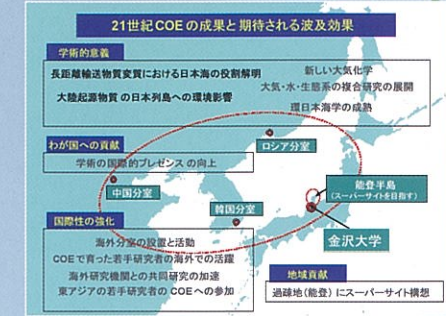
特集 金沢大学 21 世紀 COE プログラム

21 世紀 COE として採択された「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」をはじめとして、金沢大学の各学部・研究科では環境に関する様々な研究に取り組み、若手研究者の養成や専門家の育成を図ってきました。



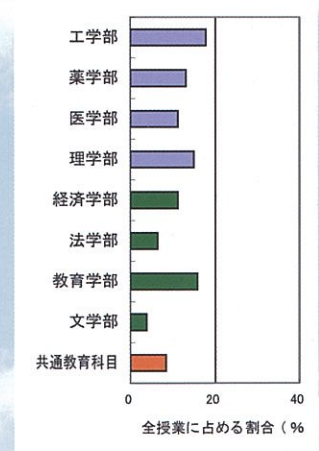
海洋流出油の生態影響に関する最近の研究

長期にわたる継続調査によって、能登半島に漂着したナホトカ号 C-1 重油は、海岸の性状・形状によっては数年以上も残留している地域があることが明らかになりました。



環境に関する教育

金沢大学では環境に関する授業が数多く開講されています。2006 年度から共通教育の授業として始まった「大学・社会生活論」には環境に関する講義も組み込み、入学時から環境教育に力を注いでいます。「大学・社会生活論」の授業では環境をはじめ、薬物、ハラスメント、健康（からだ・こころ）、図書館利用法、人権、ボランティアと社会貢献、企業倫理、消費者被害、国際交流、交通マナー等多方面の事柄を学習します。授業を通してできるだけ早く大学に慣れ、大学生らしい学習態度・生活態度等を身につけることを目標としています。



共通教育・学部教育で「環境」をキーワードにした講義科目の部局別割合

「環境と化学物質/化学」の紹介

この授業では、大学周辺の関連施設への視察実習を取り入れています。



尾小屋地下測定室内の状況

地域・社会貢献活動

「角間の里山自然学校」や「サテライトプラザ」などで、さまざまな地域・社会貢献活動を行なっています。2006 年度には新たに「能登半島・里山里海自然学校」を開講し、里山里海環境保全と環境に配慮した産業育成による地域振興の研究と人材育成に着手しました。



「能登半島・里山里海自然学校」の拠点である能登学舎 (旧小泊小学校、珠洲市)



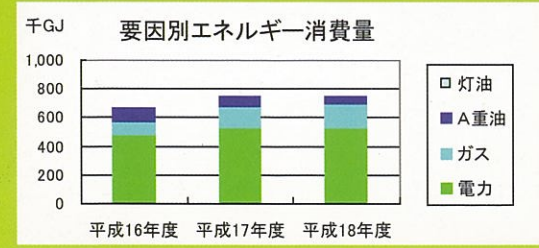
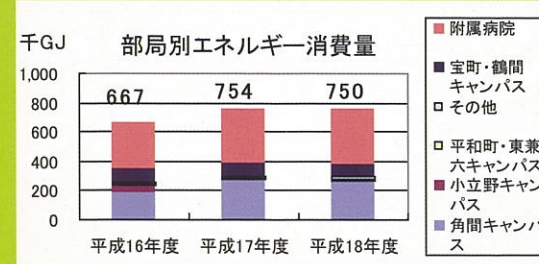
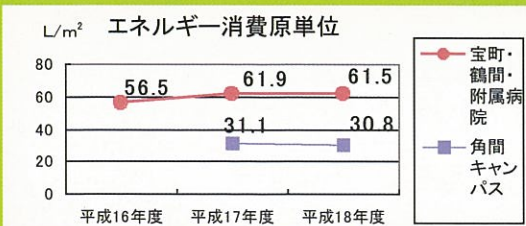
大学公開講座「人間と環境」(主任講師: 染井 正徳 前自然研教授)



環境への配慮

1 エネルギー消費

エネルギー消費原単位を前年度比1%削減することを目標に、平成18年度より、3日間の夏季一斉休業、冷暖房期間や時間帯の短縮、室内空調設定温度（夏季28℃、冬季20℃）の周知・徹底、昼休み時間帯の消灯、不使用機器の電源の遮断等の省エネルギー活動を行ってまいりました。実績では、残念ながら、図のようにエネルギー消費原単位で角間地区が0.9%、宝町・病院地区が0.7%の削減にとどまりました。



2 水資源の利用と廃棄物の排出抑制

水道使用量は前年比14%の減少、廃棄物は10%の減少を達成しました。医学部附属病院では、感染性廃棄物の適正処理と感染事故の防止に努めています。

主な分別された廃棄物発生量とリサイクル業者への委託率

種類	廃棄物発生量 (t)		リサイクル業者への委託率 (%)	
	平成17年度	平成18年度	平成17年度	平成18年度
古紙*	232.1	318.0	96.4	96.5
ペットボトル	21.8	34.3	23.2	86.0
蛍光灯	2.4	2.4	53.1	41.7
金属くず	384.8	180.4	99.9	72.9
OA機器	42.9	26.8	100.0	99.3

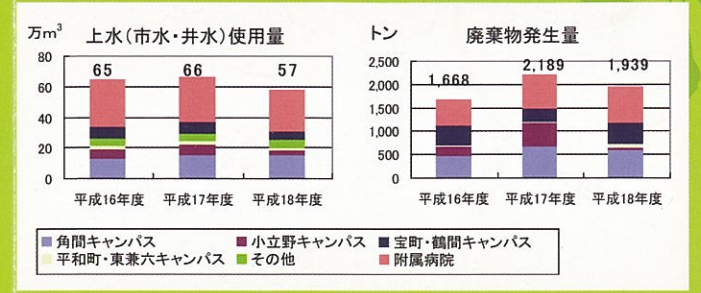
*古紙にはオフィス紙、雑誌、新聞、ダンボールを含む

3 リユース市の開催でごみ削減!

2007年3月には、卒業する学生が不要になった家具・家電製品の再利用と資源保護を目的として、市民団体と学生サークルの共同で「学生リユース市」が開催され好評を得ました。

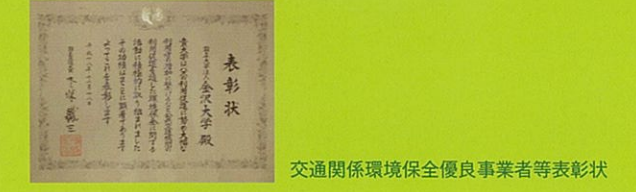


リユース市の模様 (「朝日新聞社金沢総局」提供)



4 温室効果ガスの排出と抑制策

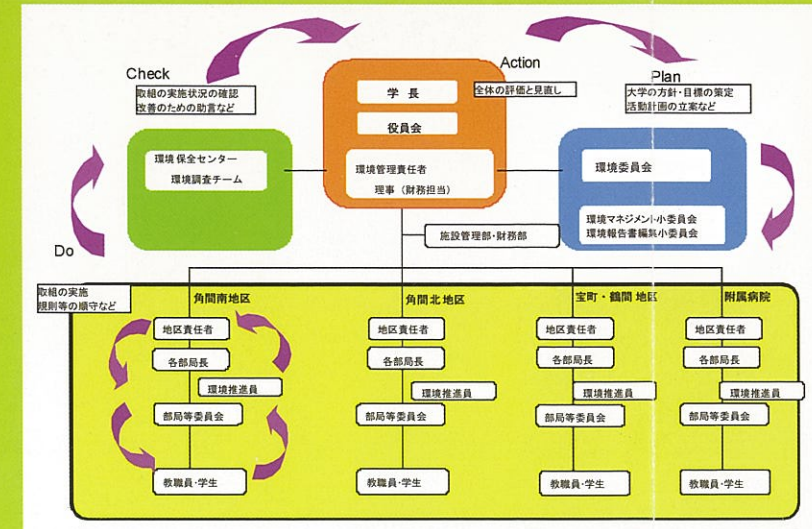
北陸鉄道(株)、金沢市、金沢大学の三者が協定を締結して2006年度から始まった「100円バス」は、実施前に比べてバス利用者が約2.2倍に増加し、温室効果ガスの大幅な削減に寄与しました。これに対して、国土交通省から「交通関係環境保全優良事業者等表彰」が授与されました。



交通関係環境保全優良事業者等表彰状

環境マネジメントシステム

2006年度には、全学が一丸となって環境マネジメントに取り組むための体制を整備しました。



●金沢大学環境マネジメント組織図

環境方針

基本理念

金沢大学は、総合大学のもつ多様性を个性的に発揮することで、21世紀の時代を担う有為な人材の育成と知の創成に努めることとしている。地域における知の拠点である本学が、このような目的をもって教育・研究・診療・社会貢献等の活動を推進するために、将来の世代と地球に対する責任を自覚し、人間と自然との調和・共生を柱とした環境方針を掲げるものとする。

基本方針

1. 金沢大学は、本学が実施するあらゆる活動において、環境問題を意識し、環境保全に貢献する人材の育成と研究の推進に努める。
2. 金沢大学は、本学が実施するあらゆる活動において、環境に関する法規・規制・協定等を順守する。
3. 金沢大学は、本学の活動が環境に及ぼす影響を調査・分析し、化学物質の安全管理、廃棄物の適正処理、資源・エネルギーの使用量削減や再利用・再資源化等に積極的に取り組むことにより、環境負荷の低減に努める。
4. 金沢大学は、環境に関わる知的成果を含むあらゆる情報を社会に還元・公開し、環境問題に対する啓発と普及に努める。
5. 金沢大学は、以上の環境方針を実現するための総合的なマネジメントシステムを構築し、継続的に目的・目標を定め、全ての大学構成員が協力して、その達成に努める。

平成18年 3月31日
金沢大学長 林 勇二郎

この環境方針は、金沢大学のすべての教職員・学生および関係者に周知するとともに、一般の方にも開示します。